

授業科目等の概要

(医歯薬専門課程 視能訓練士学科Ⅰ部) 令和5年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	実務教員による授業
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			コンピュータ演習	ワードの基本的な操作を身に付け文章作成力を身につける。	1前後	60	4		○		○			○		○
○			眼科基礎理数	視能訓練士として必要な基礎理数能力を身につける。	1前	30	2	○			○			○		○
○			統計学	視能訓練士として必要となる統計の基本を理解し医学実務上必要な分析力を身につける。	2前	30	2	○			○			○		○
○			コミュニケーション技法	視能訓練士として、社会人としての基礎の能力である「読む・書く・聞く・話す」能力を取得する事で、主体性とコミュニケーション能力の向上させる。	1前	30	2		○		○			○		○
○			倫理学	医師をはじめとする医療従事者が患者様と一般市民における医療と倫理のあり方を論ずることができる。	1後	30	2	○			○			○		
○			医学英語	英語で眼科専門書を読む長文読解力を身につけ、斜視及び眼疾患について理解を深める。	1後	30	2	○			○			○		○
○			心理学Ⅰ	幼児期から高齢期に至るまで「身体」「心理」がどのように発達していくかを学ぶ事で、相手の状況に合わせた適切な対応を身につける。	1後	30	2	○			○			○		○
○			心理学Ⅱ	心理学Ⅰで学んだ発達段階における心理に加え、視能訓練士として外来業務を行う際に必要となる患者の臨床心理を学び対応力を身につける。	2前	30	2	○			○			○		○
○			人体の構造と機能Ⅰ	人体を構成する器官の機能と構造について理解する。人体を構成するそれぞれの臓器がどのような機能を営んでいるかを理解する。	1前	30	2	○			○			○		
○			人体の構造と機能Ⅱ	視能訓練士として必要な内科学の基礎知識(症候、検査、治療等)について理解する	3後	15	1	○			○			○		
○			生物学	生物学の歴史をはじめ、生物体について組織学的見地から学び、生物体の生化学、発生、環境、遺伝について理解を深める。	1前	30	2	○			○			○		

○		内科学	視能訓練士として必要な基礎知識(症候・検査・診断・治療)を学習して習得する。	2 前	30	2	○		○		○			
○		病理学(疾病学を含む)	病態の基礎を学ぶ。病態の原因、病院と疾病の種類・疾病の回復のメカニズムを理解する。	1 後	30	2	○		○		○			
○		医学概論	医学の目的とその成り立ちについての考え方を理解し、歴史的観点から医学思想の成立を跡付ける。医学の進歩によって可能になった医療の現状を理解する。	1 前	30	2	○		○		○			
○		臨床関連医学	視覚障がい者の現況を理解する。見えない世界を知り、視覚障害者に対する正しい理解と対等な人間観を身につける。	2 後	30	2	○		○		○			
○		視覚生理学Ⅰ	外界からの可視光線をどのように処理し、脳に伝えるのか視覚生理学の基礎の部分から理解する。	1 前	30	2	○		○		○			○
○		視覚生理学Ⅱ	学内にて学んだ視力・視野・色覚・光覚・電気生理学についての理解をさらに深める。	3 前	15	1	○		○		○			○
○		視覚生理学実習	他覚的、自覚的屈折検査を理解する。また、色覚・光覚・電気生理検査を中心に、対象・検査手順・評価を身につける。	1 前	60	2			○	○		○	○	○
○		視器の解剖生理学Ⅰ	正しい眼球の図を書くことができ、視器及び付属器の名称とそれぞれの役割、生理機構を理解する。	1 前	30	2	○		○		○			○
○		視器の解剖生理学Ⅱ	学内で学んだ視器の解剖学と生理学について理解をさらに深める。	3 後	15	1	○		○		○			○
○		公衆衛生学	生活環境における人間集団生活と公衆衛生の位置づけと意義を学ぶ。	2 前	30	2	○		○		○			○
○		視覚障害者リハビリテーション	視覚障がい者の現況を理解する。見えない世界を知り、視覚障害者に対する正しい理解と対等な人間観を身につける。	2 後	30	2	○		○		○			○
○		関係法規	視能訓練士法をはじめとし、関係職種の法律にも触れ、業務遂行上の法的知識を得る。	2 前	30	2	○		○		○			○
○		視能矯正学Ⅰ	視能矯正の枠組みと理論を理解する。	1 前	30	2	○		○		○			○
○		視能矯正学Ⅱ	視能矯正の枠組みと理論を理解し、系統的な視能矯正を構築できる。	1 後	30	2	○		○		○			○
○		視能矯正学Ⅲ	1年次で学んだ視能矯正学Ⅰ・Ⅱの知識を発展させ、斜視・弱視の種類を理解しそれぞれの視能矯正方法を身につける。	3 後	30	2	○		○		○			○

○		生理光学Ⅰ	眼球をひとつの光学系としてとらえ、その仕組み・調節・屈折異常について理解する。	1 前	30	2	○			○		○			○
○		生理光学Ⅱ	生理光学Ⅰで学んだ内容を発展させ、各種疾患や患者状況による光学的変化を理解する。	3 前	15	1	○			○		○			○
○		眼科薬理学Ⅰ	眼科領域における点眼薬を中心とした薬剤の薬理作用、注意点を学び、疾患別の各薬剤の使用目的、使い方を正しく理解する。	2 前	30	2	○			○			○		○
○		眼科薬理学Ⅱ	眼科領域における点眼薬を中心とした薬剤の薬理作用、注意すべき点について、疾患別に使用目的・使用法を正しく理解する。	3 前	15	1	○			○			○		○
○		視能検査学Ⅰ	両眼視機能検査・光覚検査・色覚検査・視野検査についての対象・検査法・評価法を身につける。	2 前	30	2	○			○		○			○
○		視能検査学Ⅱ	視能訓練士業務での問診にて患者の状況を正しく把握し、必要な検査を考え提案する力を身につける。	3 後	15	1	○			○		○			○
○		生理光学実習Ⅰ	眼科における様々な光学的検査を正しく行うための基礎知識と技術を身につける。	1 後	60	2			○	○		○			○
○		生理光学実習Ⅱ	生理光学実習Ⅰでの内容を発展させ、屈折異常の原理を理解し、正確な屈折矯正を行う技術を身につける。	2 前	60	2			○	○		○	○		○
○		生理光学実習Ⅲ	生理光学実習Ⅱで学んだ屈折矯正を発展させ、屈折検査の結果から眼鏡やコンタクトレンズの度数選択に必要な知識・技術を身につける。	2 後	60	2			○	○		○	○		○
○		生理光学実習Ⅳ	生理光学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ事を総合的に考え、検査・説明・対応を一連の流れで行う技術を身につける。	3 前	30	1			○	○		○			○
○		神経眼科学Ⅰ	神経眼科疾患に関連する解剖・生理・病理と、神経眼科疾患の眼症状・全身所見・原因疾患・治療法について理解する。	2 後	30	2	○			○			○		○
○		神経眼科学Ⅱ	これまで学内で学んだ神経眼科学についての理解をさらに深める。	3 後	15	1	○			○			○		○
○		眼疾病学Ⅰ	視能訓練士が関わる眼疾患を中心にその病態、検査法、鑑別診断、治療法を理解する。	2 後	30	2	○			○			○		○
○		眼疾病学Ⅱ	眼底疾患について症候や病態、治療を理解する。	3 前	15	1	○			○			○		○
○		眼疾病学Ⅲ	眼疾病学Ⅰ・Ⅱの内容を総合的に考え、幅広い視点での理解を深める。	3 後	15	1	○			○			○		○

○		ロービジョン 医学	視覚障がいを持つ患者さんに、見える感動を提供できるロービジョンケアを実施できるよう、知識とスキルを身につける。	2 後	30	2	○			○			○		○
○		視能障害学	視機能に障害をもたらす疾患とその病態と治療、適切なケアについて理解する。	3 後	30	2	○			○		○			○
○		視能訓練学Ⅰ	正常両眼視機能を理解する。網膜正常対応と異常対応を理解し評価できる。近見立体視検査の原理と評価を理解する。	2 前	30	2	○			○		○			○
○		視能訓練学Ⅱ	弱視の発生機序と種類・治療法を理解する。斜視の種類と治療法・斜視手術を理解する。	2 後	30	2	○			○			○		○
○		医療と安全	医療現場における安全とは何かを理解し、自身が外来に出たときに必要となる医療安全・患者安全を考える事が出来る。	2 後	30	2	○			○			○		○
○		視能矯正学実 習Ⅰ	眼位眼球運動に関する検査の種類や方法を理解し、正しく行う技術を身につける。	1 後	60	2			○	○		○			○
○		視能矯正学実 習Ⅱ	網膜対応や両眼視機能に関する検査の種類や方法を理解し正しく行う技術を身につける。	2 前	60	2			○	○		○	○		○
○		視能矯正学実 習Ⅲ	各種斜視や弱視に対しての訓練方法や効果判定の方法を理解し正しく行う技術を身につける。	2 後	60	2			○	○		○	○		○
○		視能矯正学実 習Ⅳ	視能矯正学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだことを総合的に考え、ひとつの症例に対して検査から訓練を一連の流れで行える知識と技術を身につける。	3 前	30	1			○	○		○			○
○		臨地実習Ⅰ	視能訓練士の仕事の実際を知る。現場での医療職の在り方を認識し、チーム医療の一員としての責任と自覚を持つ。	1 後	45	1			○		○		○	○	○
○		臨地実習Ⅱ	患者様へ対応することで視能訓練士として必要なスキルが何かを理解し、これまでに学んだ知識と技術をより確かなものにする。	3 前	315	7			○		○	○		○	○
○		臨地実習Ⅲ	患者様へ対応することで視能訓練士として必要なスキルが何かを理解し、これまでに学んだ知識と技術をより確かなものにする。	3 前	270	6			○		○	○		○	○
○		プロ養成講座 Ⅰ	視能訓練士としての社会的役割を理解し、自身の将来像について考える事で、卒業するまでの行動目標を明確にする。	1 前	30	2	○			○		○			
○		プロ養成講座 Ⅱ	必要な情報、意思の伝達を行うことができ、集団の意見を整理して発表ができるようになるための基本的知識、技能、態度を習得する。	1 後	30	2	○			○		○			
○		対人援助講座 Ⅰ	乳幼児の実際について理解し、乳幼児への接し方や関わり方、適切なコミュニケーションのとり方を学び、実践する技術を身につける。	1 前	60	4		○		○			○		○

○		対人援助講座Ⅱ	高齢者や障がい者の実際を理解し、眼科診療や検査に必要な介助やコミュニケーションについて学ぶ。	1後	60	4		○	○		○	○
○		対人援助講座Ⅲ	ロービジョン者の基本を理解し、ロービジョンケアにおいて視能訓練士に必要な知識や技術を習得し、ロービジョン者に必要な支援について学ぶ。	2前	30	2		○	○		○	○
○		卒業研究Ⅰ	問題の発見から解決までに必要な手順を理解し、研究をするために必要な情報の収集・生理・分析をどのように行うかを学ぶ。	2前	30	2		○	○		○	
○		卒業研究Ⅱ	自身が選択した研究課題に対して、他者に効率よく伝える手法を学び、問題解決能力を向上させる。	2後	60	4		○	○		○	
○		視能訓練士総合講座	学内で学んだ様々な知識や技術を利用し、ひとつの症例に関して総合的な選択、判断が行える方法を身につける。	3後	30	2	○		○		○	○
○		導入教育Ⅰ	視能訓練士の将来像を明確にし、求められる役割を知る。3年間で学ぶことを理解する。	1前	15	1		○	○		○	
○		導入教育Ⅱ	視能訓練士の将来像を明確にし、求められる役割を知る。3年間で学ぶことを理解する。	1前	15	1		○	○		○	
○		導入教育Ⅲ	視能訓練士の将来像を明確にし、求められる役割を知る。3年間で学ぶことを理解する。	1前	15	1		○	○		○	
○		国際教育	国際的な感性を身につけることで、相手を理解する気持ちや自分の事を良く知り、主張できる力を身につける。	1後	15	1		○	○		○	
合計			65 科目	2625 単位時間 (			131 単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学年毎に必修単位数を修得したものは進級となる。卒業時まで全科目を履修し（2625時間、131単位）、学校長が適当と認めた者は卒業となる。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	1 6 週